

水産庁

プレスリリース

平成21年6月26日
水産庁

第61回国際捕鯨委員会(IWC)年次会合の結果について

マデイラ(ポルトガル)において開催された第61回国際捕鯨委員会(IWC)年次会合の結果概要については下記のとおりです。

1. 開催期間、場所

5月31日～6月21日 科学委員会等
6月22日～6月25日 総会
於 マデイラ(ポルトガル)

2. 出席国

IWC加盟国85ヶ国のうち71ヶ国

3. 出席者

中前明IWC日本政府代表、山下潤水産庁次長、森下丈二同資源管理部参事官、青木豊経済局漁業室長他が出席。
また、玉澤徳一郎衆議院議員、林芳正参議院議員、鶴保庸介参議院議員が出席。

4. 加盟国の状況

昨年の年次会合以降、エリトリア、リトアニア、エストニア、ポーランドが加盟し、本年の年次会合における加盟国は85ヶ国となった。

5. 結果概要

(1)IWCの将来

以下の内容の決議がコンセンサスで採択された。
遅くとも来年のIWC年次会合までに、公平かつバランスの取れたパッケージに合意できるよう努力を強化する。
交渉参加国の少数化及び効果的な連絡体制を構築する。
会合にはコンセンサスでの合意に到達するための権限を与えられた代表団が参加する。
IWC議長は、非公開かつ時間無制限の交渉の場を計画する。
少数国によるサポートグループを設立する。

(*)サポートグループは、日本、米国、豪州、アンティグア・バーブーダ、ブラジル、カメルーン、独、アイスランド、メキシコ、NZ、セントキッツ・ネーヴィス及びスウェーデンの12カ国。

(2)沿岸小型捕鯨

我が国沿岸小型捕鯨におけるミンククジラ150頭の捕獲枠付与提案については、引き続き、「IWCの将来」プロセスの中で検討することとなった。

(3)調査捕鯨

第二期北西太平洋鯨類捕獲調査(JARPNII)のこれまでの成果に関する専門家パネルによるレビュー結果に関し、豪州、NZ、欧州諸国、ラ米諸国等は、致命的調査の実施に反対の立場を表明した。これに対し、我が国、アイスランド、ノルウェー等より、右レビューは極めて中立的・科学的に行われ、JARPNIIに対する前向きな評価や建設的な勧告が多数なされている旨を指摘した。

(4)海上の安全

我が国は、シーシェパードの妨害行為について、映像を用いて犯罪性を説明し、我が国の取組を紹介するとともに、関係国に対して、関連する国際条約、国内法に基づき必要な措置をとるように強く要請した。これに対し、豪州(寄港国)は、豪州連邦警察が捜査を行っている旨、蘭(船籍国)は、現在措置を検討しており、近いうちにその内容を発表する旨を発言した。また、約30か国が、シーシェパードの暴力行為を非難し、関係国に対応を要請した。

(5)先住民生存捕鯨

デンマーク(グリーンランド)は、科学委員会からの助言に基づき、2010年においてザトウクジラ10頭の捕獲枠を要求した。しかし、豪州、EU諸国、アルゼンチン、メキシコ等が難色を示し、コンセンサスに至らず、今後、更に検討を行い、特別会合を開催して結論を出すことを決定した。

(6)議長・副議長選出

議長に、チリのマキエラ代表、副議長にアンティグア・バーブーダのリヴァプール代表がコンセンサスで選出された。

(7)次回年次会合の場所及び日程

第62回IWC年次会合は2010年の5月末～6月、モロッコのアガディールにて開催することとなった。

— お問い合わせ先 —

資源管理部遠洋課
担当者: 捕鯨班 高屋、増山
代表: 03-3502-8111(内線6724)
ダイヤルイン: 03-3502-2443
FAX: 03-3591-5824

[ページトップへ](#)

Copyright:2007 Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries

〒100-8907 東京都千代田区霞が関1-2-1 電話:03-3502-8111(代表)

水産庁